

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	株式会社 シルバーケアサービス
事業所名	グループホーム ひまわりの家
所在地	今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成 22年 11月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 12月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いに寄り添った介護、皆さん元気のお過ごしである。おいしい食事、職員も入居者も元気。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践するため、外部の研修や内部の勉強会を精力的に受講している。楽しみの一つである食事には力を入れており、ホームの裏にある畑で採れた旬の野菜や市場の新鮮な魚を使い、管理栄養士がバランスの良い献立を作成し、美味しく楽しい食事ができるよう工夫がなされている。また、年1回、利用者と家族、職員で東京等へ旅行をする等特別な楽しみをつくり、家族との交流や利用者の意欲・自立心を保つことへ繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 (株)シルバーケアサービス

(ユニット名) えがお

記入者(管理者)

氏名 桧垣 和恵

評価完了日

H22年 11月 2日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で話し合い、自分たちが一番大事にしたいことをあげていった上でまとめ、常日頃実践できるよう理念の振り返りの実施をいっている。	
			(外部評価) 職員全員が常に意識できるような理念や、それを基にした「えがお」「こころ」というユニット名は、ホーム開設時に管理者と職員全員で話し合い考えたものである。新人職員が入職しても、ミーティング等で常に振り返りがなされ、普段のケアに活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校や保育園の運動会を見に行ったり、保育園の園児たちが遊びに来てくれたり交流をしている。	
			(外部評価) 自治会や民生委員の会に出席をしてホームの取り組みについて説明を行い、地域に根付くよう努力している。また、地域の一員として常に接点を持つために、毎日の散歩の際に挨拶や会話を交わしたり、ホームの行事案内やホーム便りを利用者と一緒に地域住民宅へ配る等、地域の人たちと交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について理解してもらうために、年に一度勉強会を開いている。行事のお知らせ、緊急時の助け合いなど協力しあえる関係づくりができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 市の職員や民生委員、近隣の施設関係者、利用者や家 族などなるべくさまざまな立場の方たちに参加して もらうようにしている。特に地域に向けて交流の広がり ができるよう、大変協力してもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に様々な方から意見が貰えるよう、民生 委員や市職員、近隣の施設職員や家族に参加を呼びか けている。また、推進会議で出た助言は、必ず検討し フィードバックするよう心がけている。運営推進会議 が、地域の介護サービス事業者同士の連絡会を設立し たり、地区消防団との交流を持つきっかけとなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等で相談事にその都度快く対応して下さっ ており、アドバイスもしていただけ、応援してくだ さっている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談を通して、ホームに対する 意見を求めたり、利用者の暮らしぶりやホームの実情 を具体的に伝えることで、運営等について気軽に相談 できる関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみの施錠で身体拘束は 行っていない。	
			(外部評価) 帰宅、外出願望のある利用者には、利用者が外出しそ うな様子を察知したら、さりげなく声をかける等工夫 をしている。また、門に感知センサーをつけたり、近 所の見守りや連絡をしてもらえる関係を築くことで、 自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解できており、あつてはならないこととして認識している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修にも参加しており、いざというときに困らないよう、職員一同理解を心がけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際、話し合いを行っており、疑問点、不安なことがあればその都度十分説明し、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が面会にいらしたときには、お話しの中で意見等述べていただき、改善点があれば、職員間で話し合い、反映できるよう努めている。 (外部評価) 月1回行事や食事を通して家族会を開催し、多くの家族の参加を得ながら交流を図り、意見を聞き取る努力をしている。家族が直接、意見や要望が出にくいことも考慮しアンケートによる満足度調査を行い、意見をケアや運営に反映させていこうとしている。	家族会やアンケートを通して、積極的に家族の意見や要望を聴き取ろうとする姿勢は見られるが、家族主導の家族会ではないため意見や要望が出にくいと思われる。そのため、家族のみで意見交換できる機会を設ける等、積極的に運営の一躍を担ってもらえるような、さらなる取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 常に職員の意見が届く環境であり、その都度考慮したうえで希望に添えること、見直さなければならないことなど検討している。</p> <p>(外部評価) 管理者はミーティング等を通して、職員の意見を聴く機会を設けたり、いつでも職員が意見を言いやすいように良好な関係を築く努力をしている。また、管理者に意見が言い辛い場合も考え、ユニットの責任者も職員からの意見や要望を聴き取るようにしており、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) やりがいを持って働けるよう、給与面やメンタル面の整備に努めている。長期勤労者同士、旅行に行ったり、職員同士の絆づくりに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修の参加の実施。内容を皆で共有出来るよう、ミーティング時に勉強会を行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修等で知り合った同業者を通じて、施設訪問させていただいたりしている。参考にできることは取り入れてみて質向上に取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) まず、本人の要望や意見に耳を傾け、安心して生活が送れるよう、少しずつ信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 常に連絡がとれるよう、面会時に話し合いの機会を設けており、信頼関係が築けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に話し合いを設け、どのような支援を必要としているか対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽を共に出来る関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族旅行、行事などに参加していただき、一緒に過ごされる時間を持ち、一緒に介護に関われるよう共有を図っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで馴染みの場所に行く。年賀状や暑中見舞いなどで関係が途切えないように努めている。 (外部評価) 利用者が入居前に大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、利用者との日常の会話から汲み取り把握するよう工夫をしている。通っていた美容室へ行ったり、お弁当を持って生家へドライブしたり、入居前の馴染みの関係を継続させるための働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活が送れるよう職員や他の利用者との関係づくりに配慮している。家事や余暇活動しながらコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院先にお見舞いに行ったり、相談にもものっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から本人の希望や思いを受け止めている。その思いを家族にも伝えている。	
			(外部評価) 日常の会話等を通して聴取したり、家族から情報を得たりしながら、利用者がどこでどのような暮らしをしていきたいかを常に考え、ミーティング等で検討し共有し、支援に繋げている。また、作成された絵手紙を家族や知人、友人に送る等、その想いを尊重しながら支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者からこれまでの生活歴や馴染みの暮らしを聞き、本人や家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人十分把握し、その人にあった日々の過ごし方をしていただけるよう支援している。生活状況の記録、申し送り、日誌にて把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握したうえで、ミーティングで話し合いを行い、介護計画の作成につとめている。	
			(外部評価) 利用者の想いや意向は、日頃の関わりの中から把握し、家族からは面会や病院受診、手紙、電話を通じて聴取し、介護計画に反映させている。また、必ず月1回モニタリングを行い、その人らしく暮らしていくための個別計画になるよう職員全員で取り組み、日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別に記録している。申し送り、業務日誌、ミーティングなどで気づいたことを報告し共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには、地域の民政員や市の職員のかたがおり、相談等の協力が得られている。ボランティアの手話、フラダンス、紙芝居の公演を依頼している。地域の保育園とも交流を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受け ている。 (外部評価) 受診前には必ず看護師から家族に入居中の様子を伝 え、受診後も報告書にして職員全員が共有できるよ うにしている。希望する医療機関で受診ができるよ うに支援をしており、基本的には家族が付き添うこと になっているが、状況に応じてホームの看護師が対応 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に看護職員と話し合いを持ち、情報や気 づきの把握に努めている。また法人内看護師も常時相 談ができる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族の協力を得ながら、面会して不安の 軽減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよ う、病院関係者や本人や家族と話し合い、積極的な支 援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化及び終末期の支援の方法を本人、家族等と話し 合っている。状況の変化の応じ、納得のいく対応が出 来るよう話し合いをしている。 (外部評価) 看取りや重度化に関する指針には考え方や具体的支援 内容など明記され、利用者や家族にはホームとしてで きること、できないことを入居時に説明している。重 度化等の状況が変わった場合には、家族と繰り返し話 し合いを持ち、誠意を持った対応をしている。	重要事項説明書には看取りに関する指針が立てられて おり、ホームの対応方法について決められているが、 今後、家族からホームでの入居継続の希望が出てくる 可能性も考えられるため、さらに検討を重ねていくこ とを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全員が使えるよう講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 内部研修や年二回の消防訓練などを行っている。近隣の施設との協力体制もお願いしている。 (外部評価) 年2回の避難訓練に加え、消火訓練やAED使用方法等について勉強会を重ねて有事に備えている。防火マニュアル以外にも風水害対策マニュアルや、地震対策マニュアル等の作成を検討している。また、緊急連絡網には近隣の施設の連絡先も加えられ協力をお願いしている。	避難訓練や勉強会を通して常に防災意識を高めているが、いざという時に慌てず確実に避難できるよう、近隣施設や近隣住民にも避難訓練や勉強会に参加してもらえるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない言葉掛け、対応を努めている。プライバシーの保護にも気をつけている。 (外部評価) 言葉かけやケアについて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応している。また、日々の申し送りやミーティングを通して、気がついたことを随時共有できるようにしている。職員一人ひとりがケアにおいて「その人らしさ」を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場がある。その人にあつた支援を行っている。希望や願いを日常の中から引き出せるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常のコミュニケーションから、希望や要望を把握し、一人一人のペースを重んじた、柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室などに行っている。その日の服装は、本人が納得いくよう、職員も一緒になって選ぶ。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で出来た旬の野菜を使い、バランスの良い食事を提供している。入居者の意見も聞きながら献立を決め、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者と一緒に野菜を洗ったり、食事の準備や後片付けもしている。	
			(外部評価) ホームの畑で利用者と一緒に採ってきた野菜や、市場の新鮮魚などを献立に加えて、季節を感じるができる食事内容にしている。献立はグループ内の管理栄養士がチェックし、バランスの良いメニューになっている。準備や調理、後片付けは利用者個々の力を活かしながら、一緒にすることで自信や喜びに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。水分摂取量のチェックで、少ない人へは、ゼリーや果物等で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがいなどの支援を実施。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄がトイレで出来るよう、定期的にお声をかけている。必要に応じて、パットなどで対応することもある。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあった排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。また、自尊心を損ねないように一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ミーティングで情報を共有し排泄介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分は、一日1300～1500CC摂取できるよう努めている。食物繊維を多く取り入れる工夫、毎日の運動（散歩等）を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の入浴を勧めている。基本的にはホームのリズムに基づいているが、時間の調節をとったり、いつでも入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 入浴は毎日午後から行われているが、希望に応じて柔軟に対応されている。浴室は広く開放感があり、ゆったりと入浴ができる。入浴を嫌がる利用者については、家族の協力を得たり声かけを工夫するなどし入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はゆっくり休まれるよう努めている。一人一人の状況に応じて、昼寝や休息がとれるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に基づき、薬の種類、内容を把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日々の生活の中から出来ること、出来ないことを把握し、役割を見つけ、楽しんだり、気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日出かけている。年に何度かは外に出かけ、外食などしている。利用者の希望を聞きながら、家族の協力を得ながら出かけられるようにしている。	
			(外部評価) 散歩は毎日取り入れており、利用者の気分転換やリハビリに繋がっている。外出行事は月に数回企画し菊化展や梅見会等、様々な所に出かけ楽しみにしている利用者も多い。また、年1回、利用者と家族、職員で東京等へ旅行をしており、家族との交流や利用者の意欲・自立心を保つことへ繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはお小遣いを預かっているが、自分で管理している方もいる。定期的にパン屋さんがホームに来たり、買い物に行った際に、自分で必要に応じ使われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、年賀状、暑中見舞いなどでやりとりが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 中庭が見渡せる大きな窓、自然の風や光を取り入れることが出来る。壁には季節の作品を飾っている。	
			(外部評価) 共用空間には大きな窓があり、明るい日差しが差し込み、快適に過ごせるよう温度管理がされ心地がよい。日中は壁の飾り付けを作成したり、食事の下ごしらえをしたり、各々が自由に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや食卓、畳の部屋等で、思い思いに過ごされている。中庭や玄関先で休まれる方の為にベンチを設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お使いになっていたタンスや飾り物などを持ってきていただいている。	
			(外部評価) 居室にはベッド、タンスが備え付けられている。家族に、裁縫箱やオルガン等使い慣れた馴染みものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫されている。また、絵手紙や季節の手作りカレンダー等を居室に飾る等、心地よく過ごせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室の入り口には、わかりやすく表記している。タンスや持ち物等に表記している方もおいで。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	株式会社 シルバーケアサービス
事業所名	グループホーム ひまわりの家
所在地	今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成 22年 11月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 12月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いに寄り添った介護、皆さん元気のお過ごしである。おいしい食事、職員も入居者も元気。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践するため、外部の研修や内部の勉強会を精力的に受講している。楽しみの一つである食事には力を入れており、ホームの裏にある畑で採れた旬の野菜や市場の新鮮な魚を使い、管理栄養士がバランスの良い献立を作成し、美味しく楽しい食事ができるよう工夫がなされている。また、年1回、利用者と家族、職員で東京等へ旅行をする等特別な楽しみをつくり、家族との交流や利用者の意欲・自立心を保つことへ繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 (株)シルバーケアサービス

(ユニット名) ところ

記入者(管理者)

氏名 桧垣 和恵

評価完了日 H22年 11月 2日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で話し合い、自分たちが一番大事にしたいことをあげていった上でまとめ、常日頃実践できるよう理念の振り返りの実施をいっている。	
			(外部評価) 職員全員が常に意識できるような理念や、それを基にした「えがお」「こころ」というユニット名は、ホーム開設時に管理者と職員全員で話し合い考えたものである。新人職員が入職しても、ミーティング等で常に振り返りがなされ、普段のケアに活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校や保育園の運動会を見に行ったり、保育園の園児たちが遊びに来てくれたり交流をしている。	
			(外部評価) 自治会や民生委員の会に出席をしてホームの取り組みについて説明を行い、地域に根付くよう努力している。また、地域の一員として常に接点を持つために、毎日の散歩の際に挨拶や会話を交わしたり、ホームの行事案内やホーム便りを利用者と一緒に地域住民宅へ配る等、地域の人たちと交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について理解してもらうために、年に一度勉強会を開いている。行事のお知らせ、緊急時の助け合いなど協力しあえる関係づくりができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 市の職員や民生委員、近隣の施設関係者、利用者や家 族などなるべくさまざまな立場の方たちに参加して もらうようにしている。特に地域に向けて交流の広がり ができるよう、大変協力してもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に様々な方から意見が貰えるよう、民生 委員や市職員、近隣の施設職員や家族に参加を呼びか けている。また、推進会議で出た助言は、必ず検討し フィードバックするよう心がけている。運営推進会議 が、地域の介護サービス事業者同士の連絡会を設立し たり、地区消防団との交流を持つきっかけとなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会等で相談事にその都度快く対応して下さっ ており、アドバイスもしていただけ、応援してくだ さっている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談を通して、ホームに対する 意見を求めたり、利用者の暮らしぶりやホームの実情 を具体的に伝えることで、運営等について気軽に相談 できる関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみの施錠で身体拘束は 行っていない。	
			(外部評価) 帰宅、外出願望のある利用者には、利用者が外出しそ うな様子を察知したら、さりげなく声をかける等工夫 をしている。また、門に感知センサーをつけたり、近 所の見守りや連絡をしてもらえる関係を築くことで、 自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解できており、あつてはならないこととして認識している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修にも参加しており、いざというときに困らないよう、職員一同理解を心がけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際、話し合いを行っており、疑問点、不安なことがあればその都度十分説明し、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が面会にいらしたときには、お話しの中で意見等述べていただき、改善点があれば、職員間で話し合い、反映できるよう努めている。 (外部評価) 月1回行事や食事を通して家族会を開催し、多くの家族の参加を得ながら交流を図り、意見を聞き取る努力をしている。家族が直接、意見や要望が出にくいことも考慮しアンケートによる満足度調査を行い、意見をケアや運営に反映させていこうとしている。	家族会やアンケートを通して、積極的に家族の意見や要望を聴き取ろうとする姿勢は見られるが、家族主導の家族会ではないため意見や要望が出にくいと思われる。そのため、家族のみで意見交換できる機会を設ける等、積極的に運営の一躍を担ってもらえるような、さらなる取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 常に職員の意見が届く環境であり、その都度考慮したうえで希望に添えること、見直さなければならないことなど検討している。</p> <p>(外部評価) 管理者はミーティング等を通して、職員の意見を聴く機会を設けたり、いつでも職員が意見を言いやすいように良好な関係を築く努力をしている。また、管理者に意見が言い辛い場合も考え、ユニットの責任者も職員からの意見や要望を聴き取るようにしており、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) やりがいを持って働けるよう、給与面やメンタル面の整備に努めている。長期勤労者同士、旅行に行ったり、職員同士の絆づくりに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修の参加の実施。内容を皆で共有出来るよう、ミーティング時に勉強会を行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修等で知り合った同業者を通じて、施設訪問させていただいたりしている。参考にできることは取り入れてみて質向上に取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) まず、本人の要望や意見に耳を傾け、安心して生活が送れるよう、少しずつ信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 常に連絡がとれるよう、面会時に話し合いの機会を設けており、信頼関係が築けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に話し合いを設け、どのような支援を必要としているか対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽を共に出来る関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族旅行、行事などに参加していただき、一緒に過ごされる時間を持ち、一緒に介護に関われるよう共有を図っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との外出が多い方には、ホームの行事と重ならないよう配慮する。ドライブで馴染みの所へ行く。 (外部評価) 利用者が入居前に大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、利用者との日常の会話から汲み取り把握するよう工夫をしている。通っていた美容室へ行ったり、お弁当を持って生家へドライブしたり、入居前の馴染みの関係を継続させるための働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の性格や相性、耳の聞こえや介護の必要性やちがいがいなど、その場その場で把握しながら、職員が入る席を決めたり、席替えをしたり、協力して作業や運動ができるよう、又自然なコミュニケーションができるような支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院先にお見舞いに行ったり、相談にもものっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から本人の希望や思いを受け止めている。その思いを家族にも伝えている。 (外部評価) 日常の会話等を通して聴取したり、家族から情報を得たりしながら、利用者がどこでどのような暮らしをしていきたいかを常に考え、ミーティング等で検討し共有し、支援に繋げている。また、作成された絵手紙を家族や知人、友人に送る等、その想いを尊重しながら支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者からこれまでの生活歴や馴染みの暮らしを聞き、本人や家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の体調やペースに合わせて、休む時間や活動時間を持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握したうえで、ミーティングで話し合いを行い、介護計画の作成につとめている。	
			(外部評価) 利用者の想いや意向は、日頃の関わりの中から把握し、家族からは面会や病院受診、手紙、電話を通じて聴取し、介護計画に反映させている。また、必ず月1回モニタリングを行い、その人らしく暮らしていくための個別計画になるよう職員全員で取り組み、日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌は必ず目を通すようにしており、申し送りは口頭と書面だ確実に伝えるようにしている。月2回のミーティングで職員全員情報を共有し、計画に添った支援が出来るように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには、地域の民政員や市の職員のかたがおり、相談等の協力が得られている。ボランティアの手話、フラダンス、紙芝居の公演を依頼している。地域の保育園とも交流を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受け ている。</p> <p>(外部評価) 受診前には必ず看護師から家族に入居中の様子を伝 え、受診後も報告書にして職員全員が共有できるよ うにしている。希望する医療機関で受診ができるよ うに支援しており、基本的には家族が付き添うこと になっているが、状況に応じてホームの看護師が対 応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は常に看護職員と話し合いを持ち、情報や気 づきの把握に努めている。また法人内看護師も常時相 談ができる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、家族の協力を得ながら、面会して不安の 軽減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよ う、病院関係者や本人や家族と話し合い、積極的な支 援に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化及び終末期の支援の方法を本人、家族等と話し 合っている。状況の変化の応じ、納得のいく対応が出 来るよう話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) 看取りや重度化に関する指針には考え方や具体的支援 内容など明記され、利用者や家族にはホームとしてで きること、できないことを入居時に説明している。重 度化等の状況が変わった場合には、家族と繰り返し話 し合いを持ち、誠意を持った対応をしている。</p>	<p>重要事項説明書には看取りに関する指針が立てられて おり、ホームの対応方法について決められているが、 今後、家族からホームでの入居継続の希望が出てくる 可能性も考えられるため、さらに検討を重ねていくこ とを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全員が使えるよう講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 内部研修や年二回の消防訓練などを行っている。近隣の施設との協力体制もお願いしている。 (外部評価) 年2回の避難訓練に加え、消火訓練やAED使用方法等について勉強会を重ねて有事に備えている。防火マニュアル以外にも風水害対策マニュアルや、地震対策マニュアル等の作成を検討している。また、緊急連絡網には近隣の施設の連絡先も加えられ協力をお願いしている。	避難訓練や勉強会を通して常に防災意識を高めているが、いざという時に慌てず確実に避難できるよう、近隣施設や近隣住民にも避難訓練や勉強会に参加してもらえるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない言葉掛け、対応を努めている。プライバシーの保護にも気をつけている。 (外部評価) 言葉かけやケアについて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応している。また、日々の申し送りやミーティングを通して、気がついたことを随時共有できるようにしている。職員一人ひとりがケアにおいて「その人らしさ」を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場がある。その人にあつた支援を行っている。希望や願いを日常の中から引き出せるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度の1日の流れはあるが、レクリエーションや休みの時間など、その人のリズムに合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お化粧品がお好きだった方は、道具を持ってきていただき、楽しめるよう支援している。好みの洋服を持ってきていただき、一緒に選んでいる。行きつけの美容院に行っておられる方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で出来た旬の野菜を使い、バランスの良い食事を提供している。入居者の意見も聞きながら献立を決め、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者と一緒に野菜を洗ったり、食事の準備や後片付けもしている。 (外部評価) ホームの畑で利用者と一緒に採ってきた野菜や、市場の新鮮魚などを献立に加えて、季節を感じるができる食事内容にしている。献立はグループ内の管理栄養士がチェックし、バランスの良いメニューになっている。準備や調理、後片付けは利用者個々の力を活かしながら、一緒にすることで自信や喜びに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。水分摂取量のチェックで、少ない人へは、ゼリーや果物等で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがいなどの支援を実施。義歯もなく、磨けない方は、洗口液等を用意していただき、うがいで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人のリズムに合わせて、トイレ誘導を行っている。失禁を気にされる方は、その時の調子に合わせてパットを使っている。顔の表情での訴えを見逃さないようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあった排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。また、自尊心を損ねないように一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ミーティングで情報を共有し排泄介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分は、一日1300～1500CC摂取できるよう努めている。食物繊維を多く取り入れる工夫、毎日の運動（散歩等）を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の入浴を勧めている。基本的にはホームのリズムに基づいているが、時間の調節をとったり、いつでも入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 入浴は毎日午後から行われているが、希望に応じて柔軟に対応されている。浴室は広く開放感があり、ゆったりと入浴ができる。入浴を嫌がる利用者については、家族の協力を得たり声かけを工夫するなどし入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 疲れやすい方は、様子を見ながら、こまめに休まれるよう援助している。ご自分のリズム、その日の体調に合わせて休まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に基づいている。症状に変化が見られたら、家族や病院と連絡を取るようになっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日々の生活の中から出来ること、出来ないことを把握し、役割を見つけ、楽しんだり、気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日出かけている。年に何度かは外に出かけ、外食などしている。お墓参り等、家族と出かけられる方は、ホームの行事と重ならないよう、気兼ねなく外出できるようにしている。	
			(外部評価) 散歩は毎日取り入れており、利用者の気分転換やリハビリに繋がっている。外出行事は月に数回企画し菊化展や梅見会等、様々な所に出かけ楽しみにしている利用者も多い。また、年1回、利用者と家族、職員で東京等へ旅行をしており、家族との交流や利用者の意欲・自立心を保つことへ繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお小遣いを預かっている。数名は、ご自分で管理している。月1回のパン屋の訪問や買い物に時々行く。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いなどでやりとりが出来るよう支援している。家族や友人からの電話を取り次いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 中庭が見渡せる大きな窓、自然の風や光を取り入れることが出来る。壁には季節の作品を飾っている。	
			(外部評価) 共用空間には大きな窓があり、明るい日差しが差し込み、快適に過ごせるよう温度管理がされ心地がよい。日中は壁の飾り付けを作成したり、食事の下ごしらえをしたり、各々が自由に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや食卓、畳の部屋等で、思い思いに過ごされている。中庭や玄関先で休まれる方の為にベンチを設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お使いになっていたタンスや飾り物などを持ってきていただいている。	
			(外部評価) 居室にはベッド、タンスが備え付けられている。家族に、裁縫箱やオルガン等使い慣れた馴染みものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫されている。また、絵手紙や季節の手作りカレンダー等を居室に飾る等、心地よく過ごせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室の入り口にわかりやすく表記している。タンスの中の物を表記している方もおいで。身体状況に合わせ、当人や家族と相談し、居室をフロア近くに変えたり、トイレの近くに変えたりしている。	